

2017年(平成29年)11月30日(木) NO 116号

K-PURO NEWS

【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	http://www.k-puro.co.jp
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ設置	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

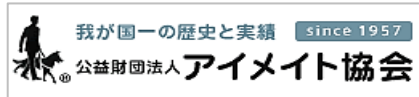


【加盟団体】



RID2770	川口モーニングロータリークラブ	http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/
NPO 法人	さいたま起業家協議会	http://www.saitama-kk.org/
公益社団法人	千葉東法人会	http://www.chibahojin.jp/
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	http://www.rinri-chiba.org/
公益財団法人	モロロジー研究所	http://www.morology.jp/

【応援団体・企業】



今月の言葉



心のキャッチボールは、まず相手の心を素直に受け止め、共感するところから始まります。

そして今度はこちらから、温かい思いやりの心を投げかけるのです。こうしたやり取りによって、お互いの心は通い合っていきます。

私たちは多くの人々とのつながりの中で支えられ、生かされています。

まずはそのことに感謝し、他の人の幸せを祈り、自分が誰かを支えることができるように、思いやりの心を発揮していきたいものです。

その実践は、私たちの人生と社会を、より明るく豊かなものにしていくでしょう。

今月の良い話 「なぜ燃え続けるのか」

一昨年、私はある人から招待状をいただき、「屋根の上のヴァイオリン弾き」という芝居を見に行った。大変感動的なドラマであった。71歳になった森繁久弥さんが、3時間、舞台上で踊り、歌い、演技続け、場内は大歓声の中で終わった。最後に、森繁さんが「皆さん、ありがとう」といって手を振った。彼の目には涙があった。



聞くとところによると、森繁さんは、18年かかって840回、この芝居をやり尽くしたという。芝居小屋を出る時に歩けなくて、付き人に支えられて車に乗ったこともあるそうだ。それだけ舞台に精魂を使い果たしているのであろう。私は見終わって、フラフラして立ち上がることができなかった。そのまま席に座りこんでしまった。

数日後、国電で神田駅を通り過ぎようとした時、ビルにかかった垂れ幕が目に入った。先日見た「屋根の上のヴァイオリン弾き」の垂れ幕であった。そこには「どうかこの感動を親から子供たちに」と書いてあった。それを見たとき、私の目から涙がどつとあふれてきた。わけもなく流れてくる。生命の底から込み上げてくるものを、私は抑えることができなかった。



日曜日に洋画の解説をされる淀川長治さんという方がいる。淀川さんはブラウン管から消えていく時、「さよなら、さよなら、さよなら」というのであるが、不思議なくらいに余韻が残っている。一体、なぜ、淀川さんの「さよなら」が余韻として残るのだろうか。淀川さんはこんなことがあったそうである。ある時サイン会があった。サイン会も終わり、会場を出た時、突然小さな子供が寄ってきた。その子は「おじさん、握手をしてください」と左手を差し出してきた。淀川さんは、「ぼく、失礼なことだよ」といってその子の左手を払いのけ、待機していた車に乗り込んでしまった。

淀川さんは海外によく出掛けるので、海外でいきなり左手で握手を求めることは大変失礼なことであるから、やってはいけないことだと知っていた。

車に乗り込んでから、ふともう一度その子を見た。淀川さんはハッと思った。その子には右手はなかったのである。淀川さんは車から飛び降りてその子を抱きしめ、「おじちゃんを許しておくれ」といって、その子と一緒に涙を流して泣いたという。このようなエピソードの中に、私たち現代人が忘れた大事な忘れ物がある。豊かで恵まれた中に、大事な大事な忘れ物をしているのである。

行徳 哲男(日本BE研究所所長)

月刊致知 1986年7月号

今月の良い話 「常に前進」

人気クイズ番組の回答者として知られていた学習院大学名誉教授の篠沢秀夫さんが10月26日に84歳で亡くなりました。

この10年ほど、ALS(筋萎縮症側索硬化症)という難病と向き合い続けてこられました。声を失い、動くこともできない日々を篠沢さんはどのような思いで乗り越えてこられたのでしょうか。



話すことができず、動くことも困難になったいま、私は「古代の心」で生きています。現代は情報が多く、自分と他人とを比べてしまいがちです。子供の育ち方が平均以下と思って殺してしまう母親の話など、目を覆いたくなるニュースが溢れています。



一方、身の回りしか見えない古代の人は呑気だったことでしょう。余計な情報がないので、他と比較して豊かだとか貧しいとか考える必要もありません。ありのままの自然環境を受け入れて、伸びやかに仲良く生きていたであろう古代人。

古代の心では、目に見えることしか分かりません。それでいいのです。



現代も全人類の奥底に眠っているこの古代の心で、いまを否定するのではなく、いまを楽しむ。それを提起するのが、ALSの発症後に着想した、新古代主義・ネオアルカイズムです。「こうならなければよかった」「元気な人が羨ましい」などと思うと、心が沈み、体が重くなります。けれども私のいまある姿は、人工呼吸器を付けたことにせよ、自分で選んだ結果です。他人を思い煩うことなく、我が道を行く。

そう心に決めて、この一瞬の自分の体に満足すれば、お天気がいいだけでも嬉しいと感じます。声が出せなくても、心の中で好きだったフランス語の詩を吟じ、フランス民謡を歌っていられます。



そして、いましようとすることを決めて、一つ上の目標を定めると、心が躍ります。ベッド暮らしになってからは、毎日2時間は執筆に充てると決め、既に『ぶるぶるぶるブルターニュ大好き』『美しい日本語の響き』『命尽くるとも「古代の心」で難病ALSと闘う』の3冊の本の刊行が実現しました。

去年は『クイズダービー』以来の知人である女優の長山藍子さんから、陽気で社交的な私の妻・礼子を、劇で演じたいとお申し出がありました。

劇の脚本の土台とするべく、夫婦自伝物語『明るいみ出し』を半年かけて書き上げました。妻との出会いからいままでを楽しく綴り、大変な分量になりましたが、既に校正刷りとなり出版は間近です。



人生、何事も上手くいくとは限りません。一時の成功も振り返れば大したことではないと気づいたり、失敗して打ちひしがれることもあります。けれども心の苦しみについては、語らないことで耐えるしかありません。

悲しみは口にしないでじっとこらえ、やり直して明るく前へ進めばいいのです。困難に遭うたび、私は自分にそう言い聞かせて乗り越えてきました。

「前進 前進 また前進」はいまも昔も私の行動原理です。



篠沢 秀夫(学習院大学名誉教授) 月刊致知 2012年3月号

事件ファイル NO116 U字ロック 紐で簡単開錠

玄関ドアのU字ロックはビニール紐で簡単に開けられてしまいます。

開け方は、ビニール紐を外からU字ロックの上部にかけ、先端に紐を移し、一度ドアを閉め、外から逆方向に引っ張ることでも簡単にロックが外れてしまいます。（写真 You Tube より転写）

実際に試してみましたが、本当に簡単にロックを外すことができました。

このやり方を利用して不正侵入する輩もいますので、U字ロックはあくまで補助的なものであり、必ず錠をかけるようにして下さい。

チェーンロックも輪ゴムで簡単に外れてしまうようですので十分ご注意下さい。



プロ太の小話集 NO116 『丁寧な記述』

保険の申込書を書き込みながら、男ははたと筆を止めた。

「どうしましたか？」保険のセールスマンが聞くと、男はしばらくためらっていた。

「うん・・・ここの近親者の死因を書く欄なんだが・・・」男は言った。

「実は・・・親父は絞首刑になってね」



「なるほど。よくあることです。」セールスマンは流れる口調で答えた。

「では、こう書いてください。『公式の行事に参加中に足場が崩れた』と。」

////////////////////////////////////

今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？

1 年のお礼

注:プロ太とは、写真のK-PURO番犬です (体長 10メートル・体重 1トン・無敵無敗)